常磐毎日新聞

八月二十五日夕刊

常磐毎日新聞社
常磐毎日印刷株式會社

今秋の選擧は

公民的の自覺から 奉公の誠を

致すや否やの試金石

平市振興委員等が參集 肅正運動の方法を練る

來る九月に執行される貴族院多額納稅者議員並に縣會議員の選擧肅正は我國未曾有の重大時局下に於て行はれるもので此選擧が公正に行はれるかどうかは實に國民が時局下に於て眞に公民的の自覺を爲し奉公の誠を致すや否やを示すべき一大試錬であるとも見らるゝ折柄平市では昨日の振興委員會に於て選擧肅正に關しての協議を遂げた結果肅正運動の具体案を決定したがそれに依ると先づ縣から講師の派遣を求めて公會堂に於て大講演會を開催する外市内數ヶ所に肅正の叫びを擧げ且つ九月一日の興亞記念日を期して午前九時から縣社子鍬倉神社に

振興委員、區長、有權者、其他各種團体員多數の參會を求め祈願祭を擧行

一方市内各學校に於ては兒童生徒に對し選擧肅正の趣旨を訓話し更に同樣の綴方、畫方、圖畫等を課し兒童生徒を通じて各家庭に働きかけ、また小學校上級兒童、青年學校中等學校生徒には投票日の前日投票所を見學させ

更に工場、會社等の從業員に對しては事業主の協力を求め選擧肅正の趣旨徹底を圖り特に棄權防止を期する等萬全の策を講ずる外左記に依つて特に注意を喚起する事に努める由

イ、投票當日各戸洩なく國旗を掲揚すること

ロ、投票開始時刻には「サイレン」警鐘、大鼓等を一齊に打鳴らすこと

ハ、立看板を要所に掲示しポスタービラ印刷物の配布をすること

ニ、投票終了者に投票證を配附し是れを各自門戸に貼附すること

卅年振りの豐作

鮫川水路の恩惠で

菊多方部稻作順調

石城郡南部（植田外五ヶ村）地方にあける三百町歩の稻作は雨後の順調な天候に惠れて草丈伸び分蘖も頗る良く本年は平年作以上の收穫豫想で喜んで居り古老の話では三十年來の豐作だといつてゐるが同地方は今春完成した鮫川疏水の恩惠に浴し渴水の惱みは全然なくなつた關係とみられる

植田新廳舍 けふ移轉

既報、植田町役場では工費一萬六千圓を投じて工事中だつた新廳舍が漸く竣工したので今二十五日竣工檢査を行ひ即日移轉した

北洋漁業船歸る

今夏の成績は赤字

北洋漁業に獨航した石城江名中ノ作、豊間の各漁船四十餘隻は二十三日までに全部それ〴〵母港へ歸つたが今夏の漁獲成績は各船とも意外の不良で赤字となつた漁船が大半を占めた程で明待は全く裏切られた態である、なほ歸港した漁船は九月二十一日解禁のサンマ漁並に十月一日から開始される汽船底曳への準備に着手した

葉煙草に追はれ 植田收繭量減る

植田繭市場の秋繭取引は二十九日頃から開始、總收繭量は七千貫で昨年より三千貫の減産をみる豫想だがこれは勞力不足に加へて葉煙草の初耕作に忙しかつたためで晩秋蠶で取り返そうと發蠶家は今から意氣込んでゐる

半島人判決 既報

遊興費に窮し同僚の現金や貯金通帳、衣類等を窃取懲役八ヶ月を求刑された小名濱町日雇職工半島人金德用(ID)の判決公判は二十四日平區で開廷されたが判事から求刑通り懲役八ヶ月但し執行猶豫三年間の判決を言渡された。

長期獻金

江名の山口屋

既報、今次事變勃發以來冗費を節約獻金を續けてゐる江名町字南町山口屋女將志賀かつさん始め女中さん達一同は獻金翌始

舊盆前を期して 統制違反を處罰

惡質のものが七件

平署では舊盆を前に二十二日から管内一齊に經濟統制違反の取締を行つてゐるが二十五日迄に公定價格に違反したものは五十八件に達し、この内惡質なもの七件あり、目下取調べ中で其他は全部訓戒處分に附したと

公金拔取 罪狀明らか

（既報）鍬一つを隱匿し金庫から公金を窃取した嫌疑で平署の取調べを受けてゐた玉川村前收入役代理若松清彌氏(三元)は村役場を退職後縣稅務平出張所に轉身したが遊興費に窮し昭和十一年十一月三日の明治節に波木井收入役が紅葉狩に出かけた留守中忍び込み金庫の中から百圓札一枚と十圓札五枚合計百五十圓を拔きとつたこと明かとなり今明日中送局されることになつた

後山婦 轢かる

内郷村白水神奈川炭礦後山夫片山チイさん(四三)は二十四日午後二時頃坑内で作業中炭車に轢かれ胸部、足等に重傷を負ひ目下平市田町安齋外科醫院で治療中だが生命危篤である

振興會議 昨日公會堂

平市振興委員會は昨日午前十時から公會堂に開き左の諸件を附議した

告祭を執行した上六圓を獻金したがかつさん達の獻金運動はその長期間に亘ることは縣下一で既に前線將兵の間にも評判となつて居ると

反對派も鉾を收む

渡邊村一致

渡邊村村長永山定秀氏(五四)は一部村會議員間に反對があるのに氣を腐らせ去る十八日突如助役の手許に辭表を提出したのでこの程念施村會を招集反對派も時局下に鑑み反對の鉾を收めることゝし滿場一致で辭表徹回方を交渉した結果同氏もこれに動かされ快諾辭表を徹回無事ケリがついた

盲生苦汗の結晶 けふ國防献金に

平市聲城訓盲院では生徒等が晩中休暇を利用し晝間の稼ぎを貯めて國防献金の資に當てやうと毎日努力して居たがけふ合計十八圓に達したので此の苦行の結晶を平市役所に寄託した

賣れる雜草

勿來地方各小學校では最近兒童達に廢の代用原料「雜草からむし」の採取を奬勵してゐるがからはしは田畑、土堤、山野到るところに茂つてをりこれを乾燥したものは目當り一四四十錢位で取引されると

藝妓屋寄附

植田藝妓置屋組合では例年從業員の慰安會を催したが今年は時局柄これを廢して得た金二十圓を恤兵金と國防後援會に寄附した

商港運動の今昔 (九)

小名濱支局通信

支局長 小野 務平

▽百萬圓の寄附と千圓の晩餐會△

縣財政確立の基本たる淺野翁百萬圓寄附問題はこうした經緯に依つて正式寄附の申出でとなり縣は喜んで是れを採納し茲に初めて財政計畫が樹立した譯けである。縣當局は勿論町、當局も又委員も留飲を下げた事確かであつた

扨てこうした晩餐會の費用は幾何を要したかと云ふと茲に面白い挿話が外されてある、即ち蜻蛉は高等待合で大官紳士の出入するだけに其料理も相當高いものである事は言ふまでもない、殊には宮田總監からの交渉もありそれ等を考慮しても一人當り廿拾圓乃至二十五圓見當であらうと見て居つた、この道にかけては幾多の經驗を有する小野晉平町議も(當時)二十五圓が關の山だらうと云ふ譯けで午後十一時半散會と同時に勘定と云ふ事になつた

所が料亭では勘定は後で結構だと精算を急がない、これで、てつきりそう大したものでないからだと見た爲めに一同宿所に引揚げ客窓円滿なる夢を結んだのであつたが明朝八時頃蜻蛉からの電話で精算書を話された時何で圖らん八百五十余圓と云ふのには一同一寸驚愕の形であつた

茶代祝儀、自動車賃などを計上すると優に一千円は余す所なかつた事を今更豪勢な晩餐會なるに一驚を喫した次第である

然し此の晩餐會は大枚一千圓の豪華な大盤振舞であつたが茲に百萬圓の收獲があつた事に思ひ浮べてはこれ亦地許町當局の運動方法の其當を得た事に只々舌を捲く許りである

如斯にして積極的の運動方法を講じ商港に鐵道に一石二鳥の妙策を提へ愈々國會の協賛を經て商港實現の運びに至つたもので其作戦と巧妙なる運動方法とは他町村の企及し難い處であつて、一面時代的潮流に乘つたと見る見方もないではないが町當局と町議とそして八千町民との親親和に依つた休當りと云ふ眞に實踐躬行出でたものである事を納得し得るのである

こう書いて來て見ると其如何に商港や鐵道の實現運動が眞劍味を以て當つたかが親はれ其創業が如何に困難であつたをも親知する事が出來る

この運動と第二明工事速成運動との比較對比はどうであらうか徒らに上に任せて余りに安心すると云ふ油斷が茲に湧き救へ難き結果を招來したと云ふのに見ては只呆然たらざるを得ない次第である

（未完）

田町壯年團 時局座談會

平市田町壯年團では今二十五日午後七時から町内白土會稽古場で會員相互の親睦をかね時局座談會を開く

第一校の体操表彰

平第一小學校は昭和七年ラヂオ体操開設所來毎年夏休み中實施一日も休んだことがないので今度全國ラヂオ体操會長永田秀次郎氏から表彰されることになつた

この程國防献金に植田署へ寄託した

夏井川促進

小川村代表者は二十四日出縣逗沼縣議の案内で君島知事に面會夏井川堤防修築の促進を陳情した

祝賀費寄附

小名濱町小野利平氏は長男武昌雄君の應召祝費を軍人後援會に寄附した

大時計寄附

植田町牧野進氏は今度役場新築記念にと八十圓を投じ丸形大時計一個を寄附した

興村塾建設

渡邊村では銃後の中堅農民戰士養成の目的から村役場裏に「興村塾」を建設するが工費は三千六百圓

體育會强化

小名濱町体育協會では内容の强化をはかるためこの程委員を左の如く選任した

諏訪祭り

渡邊村御社諏訪神社の祭典は二十六、七の兩日執行併せて武運長久祈願祭を行ふ

ラヂオ

今晩の部

△五町目一七目下小名濱町字下明神町一五草野源四郎氏長男巽道君

▼後六、〇〇 子供の時間 お話「簡單に出來る水遊びのおもちや」關猛

▼後六、二五 講演「歐米各國の人口問題と我國最近の人口問題」森田經三

▼後七、四〇（杭州より）

▼後八、三〇 連續ラヂオ小說、三四郎「秋」御橋公ほか

▼後九、一〇 時事解說

明日の部

▼前八、〇五 小學生の時間 綴方朗讀と講評」

▼前九、〇〇 世界一周飛行「ニッポン」號出發式並出發實況—東京飛行場より中繼—

▼前一〇、〇〇 衛生メモ

▼前一〇、二〇 母の時間「子供と漫畫」青木誠四郎

▼前一一、〇〇 佐渡金山採鑛狀況

▼後〇、〇五 土曜コンサート

▼後三、〇〇 婦人の時間「興亞の花嫁」

▼後六、〇〇 子供の時間 うたのおけいこ「今日のお天氣」武岡鐵代

▼後六、二五 講演「鹿風のいろ〳〵」大谷東平

▼後七、三〇 國民歌謠

▼後七、四〇 講演「大戰中おける各國の消費制限」金子魔之助

▼後八、〇〇 立體講談「鳥羽伏見の戰」栗島狹衣ほか

▼後八、四〇 長唄「秋色種」松永和風ほか

品 用 と カメラ
受引 現像
お用命は
西眞部寫局屋藥
平2・電3

内科 外科 一般
金成醫院
金成忠義
平市鎌田町 電話三五八番

▽是非！
御融通には御用命下さい萬事便利な御相談に應じます
公債、債券、質物一般
三井質店
平・四 電話六〇六番

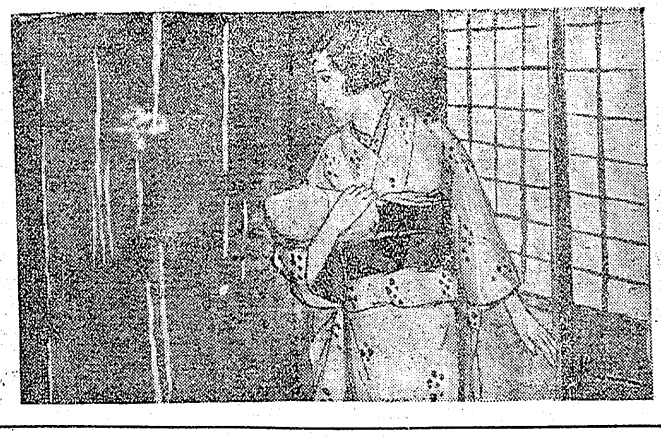
エタニツトパイプ
鐵管 代用

	耐壓度	内經	一本ノ長サ	一本ノ價額	ギボルト代	代用手續
D級	250	50	3m	3.76	2.25	
〃	250	75	3	5.58	2.75	
B級	100	100	3	5.80	4.05	
〃	100	150	4	13.20	6.07	

平市仲町通り
山田文一商店
電話262番

開業
一、産婦人科
一、外科一般
一、花柳病科
六月二十三日ヨリ
診療ニ應ズ
小名濱町小學校前
黑澤醫院
醫學士 黑澤廣
電話四五番（元土井醫院跡）

舊七月一日ヨリ
佛壇及佛器具 各種賣出し
舊盆！
年に一度の佛の供養に何人樣にも御準備を！
種目 佛壇、位牌、佛膳、佛椀、經机、高珠數、杯、花瓶、過去帳、木魚、撞木、經本、常花香、燈、佛器、線香立、ローソク立、花立
新盆の家庭へ贈つて喜ばれる佛器具を御勤め致します。
平市三丁目
丸ほん商店
電話三五九番



第百十五回
母の心（七）

「奥佐子さん、安心して下さい。今日の、午後一時の汽車で發つことにしましたから」

サンルームで、ポンヤリと外へこんでゐる奥佐子の前に立つて、桜江米二人はこびるやうに奥佐子をつくつて云つた。

「こん、でも、一寸電報を打つて來たいと思ひます」

奥佐子は、さつきから、兄のところへ、何と打電しようかと、一ぴに考へてゐた。北上敏一の家を今日からでも出たい思ひであるが、兄の用事もなく、兄もなくこの家を出ることも出來ないのである。（どこかに、家でも見つけてからのことにしようか、でも敏敏に行つても見たいし、行くといふことにもしてあるし、この家にしておかうか……）

そんなことを考へてゐるところへ、うながすやうな桜江米二人の聲を聞いて、兄の聲まで、敏一の家に居ることになるから、打電することにした。

「どこへ電報します？」

桜江米二人は、敏敏したやうに云つた。

「兄のところへでも電つたら。驚くしようと思つてゐたのに、スタカリ忘れてゐましたので……」

「では、女中にたのんだらいゝでせう。ね、そして、電報をかへたり、荷物をこしらへたりして下さい。ね、奥佐子さん、元氣を出して、ねエ」

奥佐子は、はげまされて、やつと眼を赤かした。

ブシキナヤクシ　ミサコ

メモに書いて、女中に渡した。

一電報にして、兄の勤務の日を聞

「おや〳〵、これはいゝものを買つて來たわね。電報はいゝわ。のよ、やこの頃、なか〳〵電がきくやうになつたわ」

桜江米二人は、なか〳〵のと感電であつた。父の電報に一枝を添してから、あはたゞしく二階にかけ上つて敏一の部屋の聞に腰を生けた。

「すつかり綺麗になつたわ」

桜江米二人は、感嘆しながら、電報の小枝を一枝奥佐子の部屋に持つて行つた。

「まあ、こんなになつてゐますのねエ」

敏に聞つてゐた奥佐子は、御山に電を見惚つて、感嘆ひをしてゐたへた。

窓には明るい太陽が一杯輝つて何かをさゝやいてゐるやうであつた。ジクとして、部屋の中に明ちこもつてゐるには、耐いやうな、はがらかな日であつた。

敏一には電報をして、早目に電報を打ました、自動車で上野駅に行つた。駅には、スキイをかついだ若人で、大変な混雑であつた。

「電報さうに発一田」した。

桜江米二人は、敏敏ちながら、電報の小枝を一枝奥佐子の部屋に持つて行つた。

「まあ、こんなになつてゐますのねエ」

敏に聞つてゐた奥佐子は、御山に電を見惚つて、感嘆ひをしてゐたへた。

窓には明るい太陽が一杯輝つて何かをさゝやいてゐるやうであつた。ジクとして、部屋の中に明ちこもつてゐるには、耐いやうな、はがらかな日であつた。

敏一には電報をして、早目に電報を打ました、自動車で上野駅に行つた。駅には、スキイをかついだ若人で、大変な混雑であつた。

るが、電車を見ると電何も電つてをらず一電報でますことにし電子戸を通して電りつける電電のやうに電く電られた。

電の電電が、今を盛りと咲きほこり、電の電もフタタとふくらみ、電女の乳首ほどに見えて來た。

佇たやうな電の電色が、電に電電ずき、黒い電の土が、生々と電くんで見えた。

「電電、電電と水仙を買つてありましたのよ」

のぶやは、桜江から、何か花を買つて來るやうに云ひつかつて、らして敏ひたいとも思つたのである。

科學的知識の缺除

◇…この頃の世の男性は「女性の科學的知識の缺除」を痛感され大に啓蒙らしたことは勿論ですが、現在の教育制度、家庭生活の樣式の上から見て、この傾向に就ては私達女性側も大いに考慮してよい問題だと思ひます

◇……ところで「然らば、どうすればよいのか」と考へた時、私達みな、自らの科學的知識といふものが殆と無いではないか」と驚かりが適者で、我婦で、自分學問なのに、ひしら驚かざるを得ません。一現在の私達に新聞を讀むその時間が與へられてゐるせうか讀書能り、ニュース映畫能り——驚めから聞きると「他一人聞いてるのだ」といふ感をして、聞の物を極にもしてくれない男性の爲に要は下女以上の勞働をしても猶足らぬのです

自分自身の者を顧き、自分の要に進歩向上の時間を與へることに欲いては、その時に關する讀り、實に非合理的で、實踐力の缺乏してゐること、女性の科學知識の缺除の比ではございますまい（小林板子）

聖戰こゝに二周年

★★★★★★★女□の覺悟はいかに★★★★★★★

★…大陸の戰野には續けつく夏がめぐつて來ました。心に銘じて忘れ得ない聖戰二周年のこの日銃後を護る女性の覺悟を明たにし、東亞建設の大きな役割に更に一歩を進めなければなりません。茅野雅子女史の所感を聽きました

緊張が足りない

茅野雅子女史

戰れるといふことだけで、人の心は聞はこんなにも太く且つ逞くなるものかと、二年前の今日を聞かも、私はいまさらに一種の感慨を感ずにはゐられない。國際的に一段の銃聲が聞いてから、上海戰の戰況ニュウスにいらいらしてゐた頃、私たちはどんなに暗い顏をし、どんなに悲しい思を充らしてゐたことだったろう。

その頃私はたつた一人の娘を結婚させたが、その按配をさ、同身の淋い氣持で、出來るだけ切りつめてしたのだった。

丁度その戰爭中に上海が陥落してくれたので、涙で下さつたお祝品にちにも、私達で配給をあげる申譯が出來たやうに感じした。それ出來一段も緊張してゐたのに喰今は**その緊張が**発と見られないやうである。いろいろの戰爭も手に付けれる。日常生活の上のことでも、官廳からの通達や命令がなければ、自發的に行はれない狀態は一時どうしたことであらうこれは戰爭が他に勝利勝利の連續である爲と、私たちがそれを目前に見ない爲でもあるが、本當の國相が自に自に緊張を無へてゐることに對する私たちの性の覺悟の不足にも大きな原因があると思ふ。

徒に興奮、暗くのみ考へることは勿論よいことではないが、正しい覺悟に感じた明日への覺悟は是非必要として忘かなくてはならない。

それには女性の内からの要請が必要には相違ないが、婦りがちな人々の要望を期待して、婦に陥らしめない工夫が政府當局にも、政會の本部たる新聞界にもなくてはならないと思ふ

水の性質を知へ

醫師が來る迄の人工呼吸法

水泳のターメンですが、若し不幸にして水に溺れた人が出來たり、見付けた場合、人工呼吸さへ知つてゐれば一命を助け得ろかも知れません。そこで夏の心得として人工呼吸法の正しい方法を YMCA 教育主任醫田孝氏に何つて見ました。

△▲……この方法は北米の旅行中の方法にならつてやつたものですが、人工呼吸法は、やり始めた人は必ずしも明瞭すればともかくさもなければ

四間時 間けることが必ず的の戰爭となつてゐるのですし多くの戰爭を要するものですから國民全體の覺悟と決意を要するものです

△▲……さて溺者があたら、速へ間ばず救ふべく早く、其場で、水を口のんでゐたら立腹をし、そこへ入れ、手を口中へ入れ舌が巻られ腹に溜が例かでつかみ、背を腹して水を吐かせ、すぐ地面、床の平な場所、背くは多少傾斜の場所をさがし伏臥させ、頭を後に向け、一方の手を

頭の下 （折り曲げ（これは呼吸する時に口や鼻へ砂や塵が入らない爲によい））腕枕の爲にまたがり、指と指の間を四腹し、指をつけた腕、背の筋肉の下部へ置て、腕の曲げずに後方

結婚する相手方の遺傳

兎唇、多指症の遺傳「優性」より「劣▷」が怖い

問題は

醫學的問題では近く遺傳學を研究してわが國獨特の結合を發揚することとなり、わが大和民族強化のための醫學的問題を解決しようとする運動が起こりました。やかましい問題だけに、中止して「問題」の研究に移りたいとの意向で、左の問題中止の實例について、

結婚 を控えたお嬢さんの曲の子供に「兎唇」があるのを知つたこの大學生は、兎唇が遺傳すると聞かされてゐたので、愛情と感情の問題との間に身を悩めた、その結果、つひに嬢さんとの結婚を諦めることに至りました。こゝで問題は、優性遺傳にまで進まうとしたが、ちょうど嬢さんの曲の子供に「兎唇」があるのを知つたこの大學生は